

## 2. 宮城県 宮城県立図書館

### 22世紀を牽引する叡智の杜づくりプロジェクト—宮城県図書館を核とした次世代育成の試み (平成19年度地域の図書館サービス充実支援事業)

#### (1) 事業の趣旨・概要

宮城県図書館に蓄積された叡智の集積を活用し、次代を担う人たちに自信と誇りをもって語れるふるさとや日本の歴史・文化をしっかりと伝えていくことをねらいとし、市町村図書館、学校教育の現場、社会教育施設、民間団体等との連携を図りながら、地域に役立つ図書館のあり方を探る。

#### ※委託先・図書館の概要(平成20年3月末現在)

委託先	自治体・機関名	宮城県図書館
	所在地	〒981-3205 宮城県仙台市泉区紫山1-1-1
	連絡先	TEL 022-377-8441
		FAX 022-377-8484
URL <a href="http://www.library.pref.miyagi.jp/">http://www.library.pref.miyagi.jp/</a>		
図書館の概要(平成20年3月末現在)	職員数	県職員40名(うち司書14名) 嘱託・臨時職員等43名(うち司書22名)
	開館時間	火～土 9:00～19:00 日 9:00～17:00
	年間開館日数	288日
	蔵書数	(図書資料) 976,376冊 (視聴覚資料) 53,867点
	利用登録者数	235,205人
	年間利用者数	(入館者) 519,962人
	年間貸出冊数	922,506冊
	運営状況	企画管理部、資料奉仕部の2部(4班)に職員約80名が配置され、地域文化の保護・育成と県民の生涯学習支援に取り組んでいる。 宮城県内の市町村図書館等に対しては中央図書館としての機能を担い、図書館整備、情報ネットワーク整備、資料の協力貸出し、職員研修などで支援を行っている。

#### ※地域の現況・特色

宮城県は藩政期における雄藩・仙台藩として発展した歴史を有し、東北地方における行政・経済の中心機能を多く集めている。特に仙台市は東北地方唯一の政令指定都市であり、充実した都市機能に加えて、東北大学をはじめとする大学・研究機関なども多い。

宮城県図書館は、明治14年に宮城書籍館(みやぎしょじやくかん)として創設され、今日まで127年の歴史を刻む。仙台藩の藩校・養賢堂の旧蔵書「養賢堂文庫」、藩政時代における伊達家の旧蔵書「伊達文庫」、わが国における公共図書館の先がけと位置付けられる旧青柳文庫の蔵書「青柳文庫」などの特殊コレクションを有する。そのうち「坤輿万国全図(こんよばんこくぜんず)」は国指定重要文化財である。平成10年3月に仙台市北部の現在地に新館を建設、移転した。蔵書数は東日本最大級であり、最新設備を誇る貴重書庫、常設展・企画展を行う大型展示室、様々な催しの会場として利用可能なホール、シアターなども備えている。

人口:233万8千人

## (2) 事業の実施体制

事業の実施にあたっては、「宮城県図書館・叡智の杜づくり実行委員会」を組織した。

### <委員構成>

大学教授（社会教育・地域振興・地域づくり）、県図書館協議会委員、白石市教育委員会教育長、白石市図書館館長、県立高校校長、登米地方振興事務所副所長、県教育庁生涯学習課長、県図書館館長、県教育庁生涯学習課課長補佐、県図書館企画管理部企画協力班班長、県図書館企画管理部企画協力班職員 計 11 名（事務局 3 名を含む）

### <主な役割>

事業全般に関する検討、パイロット事業に関しての実施協力

## (3) 事業体系

実施した事業は下記の 5 つである。

① 地域サービス推進事業	i 叡智の杜展示会 ii 叡智の杜展示会&セミナー iii 宮城県図書館長出前講座
② 学校支援推進事業	i 文化財・古典への誘い展示会 ii 授業における展示用レプリカ活用 iii 家政科（保育コース）の専門授業「絵本で学ぶ幼児期の人間関係」
③ 地域プロジェクト支援事業	i 地元作家を知る月間 ii 「親子で楽しむ！きずなが深まる！」志茂田景樹隊長の読み聞かせ&講演会 iii 「古典への誘い」展示会 iv 白石歴史おはなし会
④ 人材育成事業	i 家政科（保育コース）の専門授業参観 ii チューター研修会『「環海異聞」の史料的意義』
⑤ 普及啓発事業	i 普及啓発誌『みやぎの叡智～宮城県図書館貴重書の世界～』の発行

## (4) 当事業に取り組んだ背景・経緯

宮城県図書館では、平成 16 年度から、宮城県図書館に継承された知の集積を活用し、次代を担う人たちに自信と誇りをもって語れるふるさとや日本の歴史や文化をしっかりと伝えていくことを目的とした総合戦略プロジェクト「22 世紀を牽引する叡智の杜づくり事業」に取り組み、「貴重資料保存修復事業」と「次世代育成プロジェクト」の 2 つの部門に合計 12 のメニュー（事業）を設け、展開してきた。

本委託事業では、「22 世紀を牽引する叡智の杜づくり事業」に連動して、県図書館が核となり、県図書館や地域に集積・継承された「叡智」を県民に広く伝え、全国に発信、さらに文部科学省による「これからの図書館像」を念頭に、地域に役立つ新しい図書館のあり方について、県民に具体的に示すことを試みた。

## (5) 各事業の内容と現在までの取り組み状況

### ①地域サービス推進事業

#### i 叡智の杜展示会

会場：登米市公民館 3 館、生涯学習センターを巡回

対象：登米市域住民

内容：仙台藩ゆかりの古絵図等の貴重資料の展示用レプリカを用いて展示会を行った。

⇒展示用レプリカを用いることで間近での鑑賞や直接手に取ることができ、資料をより身近に感じてもらう効果があった。また、地域の生涯学習拠点である公民館を会場として実施したことにより、児童・生徒から高齢者まで、幅広い住民に対してアピールできた。



#### 【工夫のポイント】

○開催地は藩政時代、伊達家の御一家・登米伊達家の御領地であり、伊達家ゆかりの資料を数多く展示し、地域のアイデンティティ発揚を企図した。運営においては県立高校、地域の公民館、郷土史家とも幅広く連携、協働した。⇒世代を問わず多くの来場者があり、地域文化の発揚につながった。

○展示用レプリカと資料解説目録を県図書館が用意し、会場である各公民館が展示のレイアウト、看板、広報等を考える自主運営を行った。⇒会場の広さや地域の状況に応じた運営ができた。

#### ii 叡智の杜展示会&セミナー

会場：登米市合同庁舎

対象：登米市域住民（セミナー参加者約 80 名）

セミナー演題：「西行法師のみちのく旅」

講師：県図書館資料奉仕部長

内容：先記①と同じ内容の展示会の最終日に、歌聖西行と登米地域との関わりを紹介するセミナーを開催した。

⇒貴重な資料に身近にふれる場となったことに加えて、セミナー「西行法師のみちのく旅」の開催により、地域に埋もれていた文化を再発見する機会ともなり、参加者の好評を博した。

#### iii 宮城県図書館長出前講座

会場：登米市公民館 2 館、生涯学習センター、登米市東和総合支所

対象：登米市東和町民（参加者約 80 名）

セミナー演題：「東北中世史の幕開け」「慶長遣欧使節」「世界 1 周した石巻の水主の物語」など

講師：県図書館長

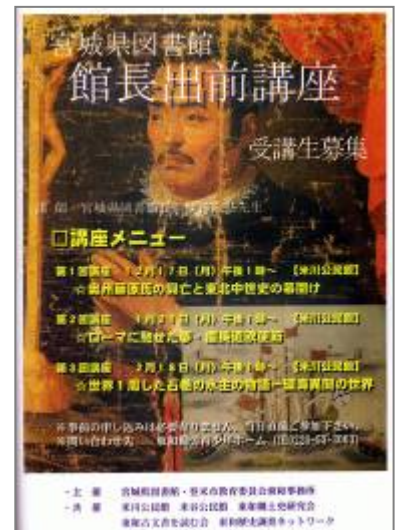
内容：宮城県を中心とした東北の歴史と文化についての連続講座を実施した。県有形文化財指定絵図等貴重資料の画像をテキストとしたセミナー形式を取り、先記①「叡智の杜展示会」の実施期間を中心に計 6 回行った。

⇒展示会と連続セミナーを立体的に企画し、郷土の歴史について深く学ぶ場となった。

#### 【工夫のポイント】

広報・PR 等も含め、講座の運営は会場である登米市が行った。

※単なる会場のスペース提供ではなく、企画運営にあたっては県図書館と登米市教育委員会が連携して取り組んだ。この事業が地域文化発信の起点となるよう、郷土史家・教育関係者の参加を促し、実現した。



登米市が作成した講座のチラシ

## ②学校支援推進事業

### i 文化財・古典への誘い展示会

会場：県立高校5校を巡回

対象：高校生徒、保護者、一般住民

内容：県有形文化財指定絵図等貴重資料や日本の古典を広く県民に紹介することを目的とし、展示用レプリカを活用した巡回展示会を実施した。具体的には、保護者や地域住民が来校しやすい学校の文化祭等の場で、県図書館所蔵資料である江戸時代の鳥類図譜『禽譜』や魚類図譜『魚蟲譜』などのレプリカを展示した。

⇒展示用レプリカを用いて、各学校で自主運営を行ったことで、より生徒に身近な展示会を実現できた。解説資料等は学校側が工夫して作成し、生徒が参加する場合も多くみられた。

#### 【工夫のポイント】

実施する県立高校の職員・学校司書を対象に、県図書館が展示資料の活用法等基本的な事項の事前説明会を行った。展示用レプリカと資料解説目録は県図書館が用意し、それをもとに会場である各高校が展示レイアウトや活用法などを考え、さらに解説資料の作成も行った。

⇒各高校とも、企画準備段階から教師・生徒の参加があり、それぞれの展示会に創意工夫が凝らされた。

### ii 授業における展示用レプリカ活用

会場：松山高校（学校長が当委託事業の実行委員）

対象：松山高校生徒1～3年生

内容：学校図書館を教室にして、歴史の教科書に掲載されている『坤輿万国全図（こんよばんこくぜんず）』（17世紀の世界地図）の原寸大のレプリカを用いた特別授業を実施した。授業は教科担当教諭と学校司書によるチームティーチング形式とし、資料が成立した時代の歴史と資料成立の背景を総合的に学習した。

⇒同校の生徒たちが予め『坤輿万国全図』に関する年譜を作成し、教材の1つとして利用した。県図書館と学校・生徒たちの3者の協働を実現できた。また、学校司書にとっても、生徒に対する授業を担当したことで、司書の専門性を発揮する場となった。



『坤輿万国全図』のレプリカを利用した授業

### iii 家政科（保育コース）の専門授業「絵本で学ぶ幼児期の人間関係」

会場：松山高校

対象：松山高校家政科保育コースの生徒

講師：宮城学院女子大学教授

内容：絵本『ぼく、ひとりでいけるよ』『おさるはおさる』『ヤダとイイヨ』を教材として、幼児の成長過程における人間関係について学んだ。保育実践経験のある講師から学ぶことで、日頃学んでいる知識との相乗効果を引き出し、読書への関心を喚起することを目的とした。また、講師から北欧の保育事情なども紹介された。

⇒「絵本を通じて普段のコミュニケーションや人間関係のあり方を知ることができた」という感想などがあり、保育における絵本の有用性が伝わった。

#### 【取り組みのヒント】

○絵本は人間関係を学んでいく上で大切であると考え、将来、子どもたちが保育士や親になったときに役立つと考えた。

○本を読んでもらうという体験がその後の読書活動への推進にもなると考えた。

### ③地域プロジェクト支援事業

#### i 地元作家を知る月間

会場：白石市図書館

対象：一般市民（講演会の参加者は48名）

講師：小野勝美氏（白石市出身の拓版画家、作家）

演題：「白石出身の歌人 佐藤嘲花の生涯」

内容：小野勝美氏の著作と拓版画及び関連資料 20 数点の展示を行った。また、小野勝美氏による講演会を実施した。

⇒県図書館との連携のもと、白石市図書館が企画運営の全般にわたって地域文化の拠点としての機能を発揮し、地域文化再発見の場を提供できた。

#### ii 「親子で楽しむ！きずなが深まる！」志茂田景樹隊長の読み聞かせ&講演会

会場：白石市中央公民館

対象：乳幼児から一般市民（参加者 250 名）

講師：志茂田景樹氏

（小説家・絵本作家、よい子に読み聞かせ隊隊長）

演題：「親子で楽しむ！きずなが深まる！」

内容：自作絵本の読み聞かせを全国で行っている作家・志茂田景樹氏を招き、読み聞かせと講演会を実施した。

⇒子どもの心に働きかける「読書」「読み聞かせ」の魅力について、読み聞かせの実演を交え、大人も子どもも楽しみながら体感できる機会となった。また、子どもの成長と読書、読み聞かせが果たす役割について、次世代を育成する大人に語りかける機会ともなった。著名な講師だったため、周辺市町村など広域から多数の参加があった。



読み聞かせ&講演会の様子

#### 【工夫のポイント】

白石市が平成 19 年度に策定した「子ども読書活動推進計画」を広く市民に周知する目的もあり、講師の人数では子ども読書活動への関わりの強さと知名度の高さが検討された。その2つの要素を満たす講師として志茂田景樹氏に依頼し、子どもも大人も楽しめる企画として実現できた。

#### iii 「古典への誘い」展示会

会場：白石市図書館

対象：一般市民（来場者 264 名）

内容：県図書館所蔵の『源氏物語絵巻』『名所江戸百景』など古典名作のレプリカと、白石市図書館所蔵の参考文献、関連図書を併せて展示した。また、白石市図書館所蔵の『猩々ノ図』（しょうじょうのず＝江戸期白石生まれの画家・小関雲洋が描いた板戸絵）の展示も行い、学芸員と図書館司書が協働して資料解説を行った。

⇒資料解説では来場者からも多数の質問が寄せられ、郷土資料への関心を高める契機となった。司書も解説、回答を行い、司書としての専門性と図書館機能の多様性をアピールすることができた。



展示会の様子

### 【工夫のポイント】

#### ○古典名作レプリカと参考文献の展示

宮城県図書館による古典名作のレプリカと白石市図書館による古典の現代語訳等の参考文献などを併せて展示した。加えて、わかりやすい解説資料を作り、古典を身近に感じてもらえるよう工夫した。

#### ○県と市の図書館資料と人的資源を活用

県図書館、白石市図書館のそれぞれの図書館資料と、学芸員・図書館司書という人的資源を同一の企画において連携、活用することにより、郷土や日本の文化を市民によりわかりやすく伝えることをねらった。所蔵先の違い、専門分野の違いを乗り越えての企画となり、シナジー効果（相乗効果）がもたらされた。

### iv 白石歴史おはなし会

会場：白石市図書館

対象：小学校高学年～一般市民（参加者 50 名）

内容：県図書館長によるおはなし会「武将歌人 伊達政宗と白石」を実施した。1 回ごとの完結の講座で、歴史や文化をわかりやすく学んだ。

⇒「もっと地域にスポットを当てた学習がしたい」などの声があり、参加者の郷土、歴史、文化についての学習意欲が高いことがわかった。また、仙台藩の歴史に対する知識を深めるきっかけとなった。

### 【工夫のポイント】

郷土の歴史や文化の研究者でもある県図書館長（伊達家の末裔）という人的資源を活用した。1 回ごとの完結とすることで参加しやすくした反面、連続開催することで、より意識の高い市民の知的探究心にも応える内容となった。

## ④人材育成事業

### i 家政科（保育コース）の専門授業参観

会場：松山高校

対象：家政（保育コース）のある県立高校職員等（参加者 5 名）

講師：宮城学院女子大学教授

内容：同校家政科保育コースの生徒を対象に実施した大学教授による専門授業を参観する形で、教職員・保育士・司書も参加した。『ぼく、ひとりだけでいけるよ』『おさるはおさる』『ヤダとイイヨ』という絵本を教材とし、幼児の成長過程における人間関係について講義を受けた。生徒が授業を受ける様子を参観することで、専門知識を得るだけでなく、生徒の関心や反応についても研究できる機会となった。

⇒地域の保育士や高校教諭・学校司書などが参加し、「絵本を通してソーシャルスキルを身につけることを学んだ」などの感想も出され、保育における絵本の有用性を考えるきっかけになった。



生徒の授業を参観する形で一緒に学ぶ

## ii チューター研修会「『環海異聞』の史的意義」

会場：宮城県図書館

対象：県図書館職員（約20名参加）

講師：東北大学東北アジア研究センター教授

演題：「石巻若宮丸のロシア漂流と『環海異聞』」

内容：県図書館所蔵『環海異聞』（県指定有形文化財）についての理解と知識を深めるため、専門の研究者を招き、『環海異聞』の内容や成立背景などについて講義を受けた。また、レファレンスの際に有用な参考資料についても学んだ。

⇒図書館司書・職員が備えるべき歴史資料に関わる上での基本的な姿勢・知識について、改めて学ぶ機会となった。また、『環海異聞』に関わる最新の研究成果にも触れることができ、地域の文化を集積し次世代に継承する公共図書館に課せられた使命を再認識する場ともなった。

### <白石市と登米市をパイロット事業の地域に選んだ理由>

#### ○白石市

白石市は仙台藩主・伊達家の重臣、片倉家によって白石城が築かれ、発展した歩みがあり、今も武家屋敷の連なる町並みが残る。白石市図書館は大正3年に「明治記念文庫」として設立された歴史ある図書館であり、片倉家ゆかりの古文書など数多くの歴史的な資料を所蔵している。また、白石市では平成19年度に「子ども読書活動推進計画」を策定する予定があり、本事業においてパイロット地域に選定することで、図書館を核とした地域づくりについて多角的に試みることができると考えられた。 ※白石市関係者2名が実行委員会委員

#### ○登米市

登米市は平成17年4月に9町の合併により発足した市で、市域も広く、合併以前の町であったそれぞれの地域が連携して、象徴的な事業に取り組みたいとの意向があった。また、登米市には県登米合同庁舎があり、地域連携のつなぎ役を果たす機能を担って来ている。登米市は教育委員会生涯学習担当が窓口となって、16年度～18年度に講座、展示会の開催などで先行しての実績もあり、宮城県北部におけるモデルケースとして本事業を展開し得ると考えられた。 ※登米地方振興事務所職員が実行委員会委員

## ⑤普及啓発事業

### i 普及啓発誌『みやぎの叡智～宮城県図書館貴重書の世界～』の発行

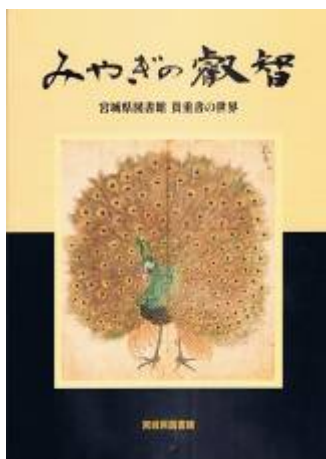
対象：高校生以上

内容：宮城県図書館が所蔵する『坤輿万国全図』『禽譜（きんぷ）』『魚蟲譜（ぎょちゅうふ）』『仙台領国絵図』などの貴重資料について多数のカラー図版と資料解説を掲載し、資料に関係するコラムなども盛り込んだ。特に次世代を担う高校生の興味関心を喚起するねらいをもって編集、刊行した。執筆・編集は県図書館司書が担当し、貴重資料に関わる専門調査の成果が反映された。

⇒高校などでの特別授業や県民を対象とした講演会（県民大学等）で副教材として活用され、県図書館の所蔵する貴重資料への理解を深める一助となった。

### <配布・活用方法>

- 県立高校図書館、県内の大学図書館に常備本として1～2冊ずつ配布した。
- 県図書館を会場として実施した県民大学でテキストとして使用した。
- 展示会開催時にレプリカを貸し出す際、副読本としてセットで貸し出している。  
⇒学校へは学級単位で利用できるよう約50冊をセットにしている。



表紙



中のページ

高校の副教材としても使用できるようにわかりやすく解説

## (6) 事業の成果・効果と事業実施後の取り組み

### ①事業の成果・効果

事業の主な成果・効果は次のとおりである。

#### i 貴重資料を活用しての成果・効果

##### ○図書館が所蔵している貴重資料の存在と図書館の機能が認知されるきっかけとなった

図書館所蔵の貴重資料の存在を知ってもらうことにより、郷土に関する意識が高まった。また、「図書館は本を借りる所」という以外の役割（資料の収集・保存・情報提供など）もアピールできた。

##### ○レプリカ資料等の活用により生徒たちに効果的に日本や郷土の歴史・文化を伝えられた

学校という身近な場所での資料展示やそれを活用した授業等により、生徒たちに効果的に日本や郷土の歴史・文化を伝えられ、また県図書館が所蔵する貴重資料についても周知できた。

#### <生徒たちの感想>

「昔の文字（崩し字）をはじめて見た」「巻物の書物にもいろんな形があって面白い」「宮城県にこれほどの貴重な地図（『坤輿万国全図』）が所蔵されていることに驚いた」

⇒古典籍に対して教科書で学ぶのとは異なった効果を得られた。

#### ii 人的資源を活用しての成果・効果

##### ○司書・学芸員・教員等の人的資源と資料の連携

展示会場での学芸員・司書による資料説明、図書館司書等を講師とするセミナー・講座等の開催、教師による貴重資料を利用した授業等、資料と人材の連携を図ることにより、歴史や文化に対する学習効果を高められた。



### iii 地域開催事業での成果・効果

#### ○地域の実情に即した図書館サービスについてより深く考える契機となった

本事業が県図書館と対象とした市・図書館等による協働で展開されたことにより、図書館司書・職員にとっては、地域の実情・ニーズをより正確に把握する契機となり、地域側からは、県図書館との連携の有用性について認識を新たにする契機となった。また、事業実施の成果は県内の市町村・公共図書館・教育機関にも伝えられ、「22世紀を牽引する叡智の杜づくり事業」の波及に効果を及ぼし、図書館の地域づくりに果たす使命・役割についても改めて考える機会となった。

⇒地域の人々、地域の図書館との連携のもとに、「これからの図書館像」を探る契機となった。

#### ○地域開催の事業が県図書館の資料への興味の喚起につながった

登米市で実施した展示会を見て、県図書館にて開催した県民大学にも参加した人たち（グループ）がいたが、それは本事業をきっかけに県図書館と所蔵資料への関心が喚起された例と受け止められる。本事業が図書館を一層身近にし、県民交流の拠点として機能していく上で効果があったと考えられる。

### iv メディアに取り上げられたことによる成果・効果

地元新聞である「河北新報」やテレビの県内ニュースなどで事業の告知や開催の様子などが何度も取り上げられ、県民に本事業の実施をアピールできた。それらの報道を通して、県図書館や地域の図書館が所蔵する資料の価値についても情報を発信でき、ひいては県民のアイデンティティ発揚につながり、地域文化の集積と継承に県民の理解が深まったと考えられる。

★資料の力と職員の力で地域に役に立つ図書館サービスのあり方をモデルとして示すことができた。

#### 【成功のキーポイント】

##### ○県図書館の歴史と職員の思い

県図書館自体に歴史があるため、「伊達文庫」「養賢堂文庫」「青柳文庫」など歴史的に価値の高い貴重資料を多く収蔵し、歴代の職員が地道に目録や解説を作り続けてきた経緯があった。原資料は保存の関係で一般には公開していないが、それらの価値を県民が共有し、後世に継承していくことに、歴代の図書館司書・職員が使命感を感じて取り組んできた。その思いを受け継ぎ、さらに新しい図書館像を探ろうとした現在の司書・職員の姿勢が当委託事業を成功させた。

##### ○図書館への信頼感

地域や学校からの信頼がある図書館がコアとなって動くことで、県と市との連携、図書館と他部局との連携など様々なネットワークがスムーズに動いた。

### ②事業実施後の取り組み

委託事業実施後、平成20年度も継続して次の関連事業に取り組んだ。

#### i 文化財レプリカ移動展示

市町村図書館・公民館等—5施設  
高等学校—8校

#### ii 古典への誘い展示会

市町村図書館・公民館等—10施設  
高等学校—14校

#### iii 浮世絵への誘い展示会

市町村図書館・公民館等—10施設  
高等学校—5校

#### iv 県民大学開放講座「叡智の杜を訪ねて」

日時：平成20年11月22日

テーマ：「宮城県図書館 貴重書の世界—みやぎの『叡智』の源流を訪ねて—」

講師：県図書館司書

内容：県図書館所蔵の国・県指定文化財の貴重書を中心に解説した。

#### v 東北大学との合同企画展示会

日時：平成20年10月25日～11月24日

テーマ：「関孝和没後300年記念—和算の世界へようこそ！—」

内容：県図書館所蔵の県指定文化財『関算四伝書』（仙台藩の天文学者・戸板保祐編纂の関流算書の集成）を中心に展示し、記念講演会を3テーマで開催した。

※東北大学附属図書館との連携事業としては2回目

#### vi 移動特別展

日時：平成21年3月18日～3月19日

テーマ：「きらめく叡智と美のしずく展（第8回）—未来へ伝えるみやぎの文化財」

内容：本館移転開館10周年記念・移動特別展示会を宮城県庁講堂で開催し、県図書館が所蔵する国・県指定文化財資料レプリカを一挙に公開した。併せて、本委託事業の実績などについてパネルで紹介する。

### （7）課題と今後の展望

#### ①課題

具体的な課題としては、次の3点が挙げられる。

##### i 貴重資料の修復予算の確保

財政状況が厳しい中ではあるが、国の指定を受けるため、修復予算の確保に努める必要がある。

##### ii 貴重資料のデジタル化、レプリカ作成の継続

貴重資料のデジタル化、レプリカ作成の予算の確保が困難な状況であるため、国の事業の受託や民間とのコラボレーションなどで継続できる方策を模索する必要がある。

##### iii 普及啓発誌『みやぎの叡智～宮城県図書館貴重書の世界～』の活用

長年の念願であったカラー図版入りの目録ができたが、作成部数が限られているため、その増刷の予算確保や、それが様々な場面でテキストとして活用されるよう、図書館同士のネットワークや学校とのネットワークで方策を模索する必要がある。

#### ②今後の展望

貴重資料の県レベルでの文化財指定を進めると同時に、次は国の指定を受けられるようにしていきたい。また公開できるようになった貴重資料（レプリカ、デジタル資料等）の活用を積極的に図り、郷土の誇りを持つような取り組みにしていきたい。

※「22世紀を牽引する叡智の杜づくり事業」が実施される以前に、宮城県図書館所蔵資料として文化財指定を受けていたのは『坤輿万国全図』の版本、写本着色の1件2点（国指定重要文化財）のみであったが、同事業の本格実施以降、貴重資料の保存修復事業に併せて専門調査を行い、32件7871点の資料が国・県の文化財資料となった。